

学校名 豊島区立巣鴨北中学校

校長名 鎌田 智 義

学校の教育目標

当たり前のことを当たり前でできる人を育て、豊島区教育ビジョン2019の実現を目指し、知、徳、体のバランスのとれた生徒の育成に取り組む。さらには、人権尊重の精神を基調とし、逞しく、主体的に生きる生徒を育むとともに、SDGs活動を通して安全・安心な豊かな学校づくりに邁進する。

**自主 自律 連帯**

学力に関する目指す生徒像

「**自主**」自ら学ぶ生徒

「**自律**」自ら考え判断し行動できる生徒

「**連帯**」仲間と協働して学ぶ生徒

授業改善推進プランの全体像

豊島区立巣鴨北中学校は、

「 問題解決能力を育成する授業や探究的な学習活動の充実 」

「 ICT 機器の活用と言語活動を充実させた主体的・対話的で深い学びの授業 」

「 各教科の見方・考え方を踏まえた実践を通して、評価を実施した授業改善 」

を実現するために、

**めあて/課題の設定** → **まとめと振り返りの実施** を 授業で取り組みながら

〈1単位時間の授業〉を、

**めあて/課題** → **見通し** ・ **自力解決** → **学び合い** → **まとめ** → **振り返り**

の流れを基本の型とすることで、子ども主体の授業を目指します。

## 令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

## 1 国語科

## 目指す生徒像を基にした国語科で育成したい資質・能力

豊かな語彙力を身に付け、主体的に生活に生かそうとする態度を養う。（自主）また、身に付けた知識や技能を用いて積極的に思考・判断・表現をすることを目指す。（自律）さらに、意見の交流や話し合い活動を通して学びを深め、言語能力を高めていく。授業のめあて、交流活動、板書、振り返りの流れを徹底する。（連帯）

| 学年 | 現在の状況  | 改善のための取組  |
|----|--|---|
| 1年 | 発言が活発で、意欲的に授業に参加する生徒が多い。話し合いや学び合い学習においても、積極的に取り組みことができる。しかし、文章を読むときに根拠をもって理由を示すことが苦手な傾向がある。また、自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。                                   | 授業で今日の目標を確認し、単元全体の見通しを伝える。文の構造を理解することや、なぜそのように考えたのか理由を聞くことにより、根拠をもってその問いを考える指導を行う。また、自分の考えを整理しやすいよう、思考ツールなどを通して自分の考えを表現する取り組みを導入する。   |
| 2年 | めあてを確認し、それに向かって学習に取り組む姿勢が身につけている生徒が多い。話し合いや学び合い学習を積極的に行える生徒が多く、意欲的で向上心をもって授業に取り組むことができる。しかし、学習したことを復習し、自ら学力を定着する部分に課題がある生徒が多い。                         | 定期考査に向けて取組のアドバイスをを行い、自主学習に向かう姿勢や習慣をつくる指導を行う。また、日常的な活動の中で、先を見通した内容の展開を意識し指導を行う。生徒自らが学習し、学習内容を、定着させるための授業の進捗を考え、達成感を得るような問いを解かせるような工夫をすることで課題克服を行う。                                 |
| 3年 | 読書をすすんで行き、自分の考えを文章として書ける生徒が多い。少人数での意見の交流はできるが、クラス全体での意見表明をためらう傾向がある。さまざまな視点を知って物事を見る目を深めたり、合意形成を目指して議論をしたりすることに課題がある。よりふさわしい言葉や文で表現できる力や語彙を増やすことも望まれる。 | 授業の目標をプリントで確認し、課題を明示して集中的に考え、意見を交流させる。話し合いのこつを活用し、異なる視点の考えを知ることで自身の考えが深まることを実感させる。プリントを提出させて授業の理解度と問題点を文章から確認し、その後の授業展開に生かす。理由を問いかけながら、自分の考えを正しく伝えるために論理的に表現できるよう、具体例を活用しながら取り組む。 |

## 2 社会科

| 目指す生徒像を基にした社会科で育成したい資質・能力   |  |  |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら学び考える力、批判的思考と問題解決能力、他者との協働力（自主）</li> <li>・ 授業では課題設定から自力解決、学び合い、まとめ、振り返りの流れを基本とし、ICT活用や言語活動を充実を図る（自律）</li> <li>・ 生徒が主体的に学び、対話を通じて深い理解を得ることを目指す（連帯）</li> </ul> |  |  |
| 学年  | 現在の状況  | 改善のための取組   |
| 1年  | <p>入学当初から、小学校で身に付けた知識・技能を活用し、協働して課題に取り組む姿勢が見られた。教師が設定した単元課題に対し、生徒自身で目標設定を行い、学習計画を立てて取り組んだ際には、ICTを活用しながら自力解決、学び合いの流れを選択して行う生徒もいた。</p>                             | <p>生徒が学習に見通しをもって主体的に学ぶことができるよう、単元ごとに目標・課題・学習内容(方法)・評価の全体像を生徒に示し、ガイダンスから各時間のふり返り、単元のまとめまで活用していく。また、授業内でICTを活用した自力解決や学び合いをくり返すことで、主体的に学び、対話を通じて深い理解を得ることを目指していく。</p>   |
| 2年  | <p>自分自身に適した学習方法を見出し、課題を設定して主体的に学ぶ生徒が増えてきている。活発に他者と協働して自力解決する力が備わってきている生徒も増えてきたが、対話を通じた学びに苦手意識がある生徒も一定数いる。学力の二極化傾向が見られるので、協働的な学び合いの学習活動を設定して、目指す生徒像の実現を目指したい。</p> | <p>各単元の授業では、「学びの地図シート」という単元全体マップを用いて学習の流れ（見通し）を把握して「課題設定→（授業）→まとめ→振り返り」の流れが定着してきている。この流れに、「自力解決→学び合い」の流れを設定した単元等で加えることで、自ら学び考える機会を増やす。また、問題解決的な学習課題を設定して、他者と協働しながら学習する場面を設定して、批判的思考と問題解決能力を育成していくことを目指す。</p> |
| 3年  | <p>メモをとりながら授業を受ける生徒や、グループワークに積極的に参加しようとする生徒が増えてきて、全体的に学習に向かう意欲は高まっている。しかし、これまでの知識が定着しておらず、課題を自己解決できない生徒や、自分の考えやわかったことを言語化できない生徒が多い現状がある。</p>                     | <p>まずは授業内で繰り返し問題を解かせて知識の定着を図る。そこから、課題を自己解決させるために、授業で発問を増やし、ICTを活用して一人一人が自分の考えを回答できるようにする。さらに、授業のまとめを文字数を定めた短文で記述させることを習慣化して、言語化する力の向上を目指す。</p>   |

### 3 数学科

| 目指す生徒像を基にした育成したい数学科で資質・能力   |   |   |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする力及び問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする力（自主）</li> <li>・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力（自律）</li> <li>・ 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、仲間と共に、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける力（連帯）</li> </ul> |   |   |
| 学年  | 現在の状況   | 改善のための取組  |
| 1年  | 授業に積極的に取り組む生徒が多く、発言が活発である。また、生徒同士で課題に対して、解き方や考え方について話し合いや教えあいができている。しかし、基礎学力が定着していない生徒は、自主学習を進めることができず、個人で課題解決に向け粘り強く考えられないことが多い。 | <p>発問を工夫することで、数学的活動の楽しさや数学のよさを知る授業展開を実践し、粘り強く考える姿勢を育てる。粘り強く取り組む姿勢を育てることで、問題解決の過程を定着させる。</p> <p>数量の分野においては日常で起こりえる状況を数学的な見方で解決すること、図形の分野においては実際の図形や立体を活用し多角的な見方を養うことを授業の導入で取り入れ、解決の見通しを持たせる時間を設ける。</p> |
| 2年  | 問題解決の過程や、自らの学びを振り返り改善することができている。また、教え合いを中心に、協働的に知識・技能の習得を図る生徒も多い。しかし、数学的な見方・考え方をを用いて考察したり、数学的な表現を用いて自分の考え方を説明することに課題を感じている生徒も多い。  | 「自力解決」の場面では、問題解決で用いる数学的な見方・考え方を習熟度別に合わせて提示する。また、「学び合い」「まとめ」の場面では、曖昧な表現でなく、数学的な表現を用いて相手に伝え、まとめを記入させる。その際、習熟度に応じて、用いる表現等を提示し、よい表現を共有する機会を設ける。   |
| 3年  | いろいろな課題に対してどうすれば解けるか、もっと速く解けないかなど仲間と解き方を工夫することができている。理解したことをもとにいろいろな事象に対し数学的に考え処理しようという態度はあるが、その表現をすることが苦手な生徒が多い。                 | <p>数学的な考え方の重要性を身近な事象と関連付けることで理解させ、表現の道筋を丁寧に行っていく。</p> <p>論理的な考察をし、的確に表現ができるように話し合い活動の場面を多く設定する。</p>   |

## 4 理科

### 目指す生徒像を基にした理科で育成したい資質・能力

- ・ 科学的事象の重要性と有用性を実験・観察や実体験の再認識を通じて主体的に認識し、科学を生活や日常の思考プロセスに生かそうとする力（自主）
- ・ 科学的な事象に関して学んだ内容の論理性や合理性に検証的視点を持ち、演繹的応用をする意欲を持ち続ける力（自律）
- ・ グループワークやICTを活用しながら仲間と対話や情報交換をし、多様な理解や視点があることを意識しながら合理的な結論に到達できる力（連帯）

| 学年 | 現在の状況  | 改善のための取組  |
|----|--|---|
| 1年 | 自然現象や科学的事象に対する即物的な関心は非常に高く、学習に対して熱心に取り組む。しかし、安全配慮や段階的な思考過程を軽視しがちな面も見られる。             | 使用頻度の高い物質の中にも、皮膚への侵食性を有するものがあることや、光の屈折の波長依存性が虹を形成することなどを例示することで、学習内容の有用性を意識させ、以て段階的な思考の重要性を認識させる。   |
| 2年 | 全体的に落ち着いて授業に参加している。復習をすることで学力が定着していくため、授業の内容を理解できない生徒や自分の言葉でまとめることができない生徒への対応が必要である。 | 見通しを持たせるため、既習事項を確認し、解決の方法のヒントを提示する。また、「めあて」と「まとめ」の文の書き出しを同一にすることで、自分の言葉でまとめることができるようにする。            |
| 3年 | 進路を意識し、学習内容を網羅的に吸収しようとする高い意欲がある。一方で、形成すべき科学的概念を十分に意識できず、表層的な理解に止まりがちな傾向がある。          | 短答形式の発問をICTを活用しながら随時挿入していくことで、暗記に依存せず、思考過程を重視して正しい科学的概念に到達する成功体験を多く持たせたい。また演習でも生徒の相互作用を重視し、練度を高めたい。 |

## 5 音楽科

| 目指す生徒像を基にした音楽科で育成したい資質・能力  |   |   |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を見つけ、それらを改善するための方法を自ら考えることができるようにする（自律）</li> <li>・ 課題解決に向けて発信できる能力を高める（連帯）</li> <li>・ 自主的に活動できる力を育てる（自主）</li> </ul> |   |   |
| 学年   | 現在の状況   | 改善のための取組  |
| 1年   | 学級によってばらつきがあるが、基本的には一生懸命頑張る生徒が多い。意欲的で活動的な生徒が多い。授業規律が定着していない部分がある。   | まずは基本的な学習態度を身につけることから始めさせたい。次にグループワークに取り組みさせるが、自発的な取り組みになるため、ある程度教師主導で行う。                                 |
| 2年   | 話し合い活動やグループワークを積極的に行える生徒が多い。意欲的で活動的な生徒が多く、音楽が好きな生徒も多い。課題としては格差の広がりである。音楽が得意な生徒と苦手な生徒の二極化が進み、どちらに合わせても授業がやりにくい状況がある。 | 個人で活動する時間と、グループワークの時間とを明確にすることで、個別最適な学びと協働的な学びの2つの学びに取り組む。基礎編と応用編と二段階で対応することで、知識レベルの引き上げを行い、音楽が好きな生徒を増やす。 |
| 3年   | 音楽が好きな生徒が多く、積極的に授業に参加する。話し合い活動も活発に行われるが、力のある生徒の発信力が乏しく、非常に惜しいところである。  | 他の人には発信しないがプリントなどでは良いコメントを残す生徒がいる。その場で発言する活動以前に、まず書かせてから発表やグループ活動の時間をとるようにプランニングしていきたい。                   |

## 6 美術科

### 目指す生徒像を基にした美術科で育成したい資質・能力

対象を観察し、光や影の陰影、形の構成や動き、質感や量感などの美的要素を基にその良さを理解し、表現・鑑賞することを通し豊かな感性を育む。(自主) また、作品制作の過程において、差異や違和感に気づき、表現の工夫へとつなげる前向きな姿勢を身に付けさせる。(自律)

他の生徒の作品を鑑賞することで、価値感の違いに気づきそれを認め尊重する心を育てる。(連帯)

| 学年 | 現在の状況  | 改善のための取組  |
|----|--|---|
| 1年 | <p>作品制作に集中して取り組むという姿勢が身に付いていない生徒が多い。</p> <p>色や形の要素を、体験活動を通して楽しんで理解していくという段階に留まっている生徒が多い。</p> | <p>作品制作にじっくり取り組むことで、表現内容が深まっていくことを実感させる個別の指導を、机間巡視の際に実施する。美的要素を基に表現することの楽しさを実感させる。</p>                        |
| 2年 | <p>作品制作における表現活動に対し、苦手意識をもつ生徒がみられるが、興味関心をもち表現・鑑賞の題材に取り組む生徒も多い。</p>                            | <p>いくつかの限られた表現技術のみにこだわるのではなく、どういった感じを表したいのか、机間巡視の際の聞き取りによって言語化させる。そのことを通して、表現意図に沿った表現技術を身に付けさせる指導を実施していく。</p> |
| 3年 | <p>作品制作における表現活動に前向きに取り組める生徒が多い。</p> <p>題材のねらいを理解し、自分なりの表現の方向性を見いだす事ができる生徒が多くみられる。</p>        | <p>題材のねらいについて詳しく伝えていく。美的要素についてさらに深い内容を指導する。そういった表現活動を通して、現代の美術表現との関わりを考えさせる。</p>                              |

## 7 保健体育科

| 目指す生徒像を基にした保健体育科で育成したい資質・能力  |  |   |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育や保健の見方・考え方を働かせ、主体的に課題を発見し合理的な解決に向けて学習する力（自主）</li> <li>・心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進する力（自律）</li> <li>・仲間とともに豊かなスポーツライフを実現するための力（連帯）</li> </ul> |  |   |
| 学年   | 現在の状況  | 改善のための取組  |
| 1年   | <p>運動に意欲的な生徒が多く、苦手な分野に対しても前向きに取り組む姿勢が見られる。一方で、運動を客観的に分析することや、分析した内容から改善策を考えることに課題がある。保健・体育理論分野では、知識として得るだけではなく、実生活に生かす力を育成する必要がある。</p> | <p>体育分野では、各単元において学習カードを活用し、自己の課題の把握や解決に向けた課題分析を行わせる。また改善策の検討に向けて、ICT 機器を活用し動きのイメージを掴ませるとともに、自身の言葉でわかりやすく表現できるよう振り返りの記入形式を工夫する。保健・体育理論分野では、集団活動で意見共有を行うとともに、実生活に生かすために自身の生活に当てはめて実践内容を検討するといった課題を設定する。</p> |
| 2年   | <p>体育分野では他者と協働したり、積極的に取り組んでいる生徒が多い。一方で、単元によっては苦手意識が強かったり、自己や他者の運動課題を見付け、粘り強く取り組めない場面もある。保健分野では、健康に関する知識を実生活等に生かす力を高めていく必要がある。</p>      | <p>体育分野では、各単元ごとに学習カードや ICT 機器を活用して、合理的な体の動かし方(正しい動き)と比較して、「① 自分の今の課題は何か」、「② 課題を解決するための方法をそれぞれ言語化して記入させる」また、成功体験を多く積めるように、生徒の実態に応じて難易度を設定する。保健分野では、個人、集団での課題解決型学習を通して、学んだことを実生活に反映させる学習を行う。</p>            |
| 3年   | <p>体育的分野・保健分野・体育理論と単元の特性を踏まえた探究的な活動を通して、合理的な体の動かし方や考え方について理解を深められるようになってきている。しかし、特に体育的分野において、考えを体で表現する力の成長が難しく、成果を実感できる生徒が少ない。</p>     | <p>個人では、学習カードの記入により、自己の振り返り及び次回への課題を明確にすることで、成果を明確にする。また、小集団活動では ICT を用いて協働的な活動を通して、より考えたことが具現化できるように工夫し、左記に述べている課題を解決できよう取り組む。そのことで授業改善推進プランの全体像となる目標を達成できるよう目指す。</p>                                    |

## 8 技術・家庭科

| 目指す生徒像を基にした技術・家庭科で育成したい資質・能力   |   |   |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせる。(自主)</li> <li>・ 生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する。(自立)</li> <li>・ 仲間と共によりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。(連帯)</li> </ul> |   |   |
| 学年   | 現在の状況   | 改善のための取組  |
| 1年   | 意欲的に授業に参加できる生徒が多いが、個々の生徒の「できること」の差が大きい。           | グループワークなどの対話や教えあいを通し、それぞれの生徒の「できること」を増やすとともに、深い学びを促す。技術分野では材料と加工の技術の単元、家庭分野では洗濯の仕方の単元で取り組む。 |
| 2年   | 全体的に落ち着いて授業を受けることができているが、言われたことを行う「受け身」の生徒が多い。    | 技術分野では材料と加工の技術の単元、家庭分野では献立決め単元で身近な事と関連付けながら実践的、体験的な活動を通し、よりよい生活について工夫しようとする主体性を育てる。         |
| 3年   | 意欲的に授業に参加できている生徒が多いが、支援をすることでより作品の完成度を高められる生徒も多い。 | 技術分野では情報の技術の単元、家庭分野では幼児体験の単元で、対話や教えあいを通し、それぞれの生徒の「できること」を増やすとともに、個々の実情に合わせた課題を設定する。         |

## 9 外国語科

| 目指す生徒像を基にした外国語科等で育成したい資質・能力   |   |  |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで、アクティブに調べ、学習に向かう態度を養う。(自主)</li> <li>・自分の課題に真摯に向き合い、英語の4技能を向上する姿勢を養う。(自立)</li> <li>・協働的な学びを意識し、積極的に他と関わりコミュニケーション能力を向上する態度を養う。(連帯)</li> </ul> |   |  |
| 学年  | 現在の状況   | 改善のための取組   |
| 1年  | <p>小学校での英語の学習で、すでに苦手意識をもっている生徒も多く、特に「読む」「書く」活動に抵抗感がある。会話練習やゲーム的な活動には積極的に取り組むことができる。</p>   | <p>フォニックス活動を継続して行いながら、音声と文字を繋げるようにする。英語に対する拒否感を軽減させるために、Kahoot!等のゲームや英語の歌の効果的な活用と、Small Step の指導過程を構築する。</p>   |
| 2年  | <p>5 Round の理論に基づいた授業を展開し、単元を通した内容理解を通して、「聞くこと」「読むこと」の概要を理解する力が向上している。Retelling の活動を通して、教科書本文内容を自分の言葉で話すことで「話すこと [発表]」や「書くこと」の力が向上している。一方で、「話すこと [やりとり]」においては、目的や場面、状況などに応じた即興的なやりとりを一定時間続けることに課題がある。</p> | <p>これまで通り、「めあて/課題」の提示→学習の見通しを板書することで1単位時間の授業に目的意識をもたせる。「話すこと」「書くこと」のベースとなる文法理解に関しては、単元テスト前に実施している文法のまとめや単元プリント等を通して、新出文法における語順や用法等に関して理解を深めさせる。「話すこと [やりとり]」の領域に関しては、Small Talk のテーマを設定し、継続的な活動を行う。その際、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識し、ICT 活用を含めて生徒自身が自分の習熟度に合った学習方法を選び、協働させるように工夫する。</p> |
| 3年  | <p>約2割の生徒の理解が浅く、授業に消極的な部分が見られることがあるが、ペア・グループでの音読活動や小規模グループでの発表は助け合いながらほとんどの生徒が協力して取り組むことができている。</p> <p>また、まとまった英文を読んだり書いたりすることや、クラス単位での発表等に苦手意識をもっている生徒が多い。</p>   | <p>レベル別の課題を与え、生徒の興味関心を引くような話題・題材を取り扱う。また、ペアやグループ活動に積極的な部分を生かし、理解度が高い生徒にはスモールティーチャーとして、苦手意識をもつ生徒と一緒に課題に取り組ませる活動を意識的に取り入れていく。</p> <p>まとまった英文に触れさせる機会を増やし、条件英作文や自由英作文、発表やスピーチなどの課題も適宜授業内で与えていく。</p>   |

## 10 特別の教科 道徳

| 目指す生徒像を基にした道徳科で育成したい資質・能力   |   |   |
|---|---|---|
| <p>内容項目を自分ごととして捉え直し、よりよく生きようとする態度を身につける。(自主) さらに、話し合い活動を通して、多様な価値観を受容し、自分の考えを深めていく。(連帯) また、自由に自分を振り返り、自己を見つめる態度を養う。(自律)</p> |   |   |
| 学年  | 現在の状況   | 改善のための取組  |
| 1年  | <p>道徳の授業では前向きに学ぼうとする姿勢はあるが、自分ごととして捉えることが弱い部分がある。</p>  | <p>導入では身近な問題を取り上げ、最後の振り返りでは今までの自分と照らし合わせて自分ごととして振り返られるようにする。</p>  |
| 2年  | <p>話し合い活動を活発に行い、他者の意見を踏まえて考えを深めることができる生徒が多い。意欲的に授業に取り組み自分の意見を積極的に発言することができる。問題や課題を自己に引きつけて考える視点を日頃から養う必要性がある。</p> | <p>本時の目標を明確にし、話し合い活動を通して自己の体験や考えをより深めていける指導を行っていく。どのような目的で話し合い活動を行うのかを指導者が、目的意識を明確にもって行い、指導の内容を整理していく。また、中心発問や返し発問の工夫を行い、自分の考えを深め、広げていく指導を行う。</p> |
| 3年  | <p>自分の生活や内面と関連させながら題材の内容を捉え、自身の考えを自分の言葉で記述している。さらに考えを交流するなかで、自分とは異なる立場に気づき、多様な意見を尊重し、人間の生き方について考えを深めていく必要がある。</p> | <p>話し合い活動を効果的に取り入れ、生徒から出た考えを整理し、多様な視点に気づきやすい展開とする。導入や発問から実感をもって内容に迫れるように設定し、一つの出来事から多様な意見が生まれることや、意見の理由や背景を話し合うことで生徒が考えを深めていける授業とする。</p>          |

## 11 総合的な学習の時間

### 目指す生徒像を基にした総合的な学習の時間で育成したい資質・能力

(1年生) 自ら課題を見付け、主体的に判断し、よりよく問題を解決するとともに、問題の解決や探究活動に、主体的、創造的、共同的に取り組む態度。

(2年生) 探究的な学習において主体的・協働的に取り組みながら、課題解決に必要な知識や技能を身に付ける。また情報収集や整理・分析を、他者に発信する力を身に付ける。

(3年生) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする力。

| 学年 | 現在の状況   | 改善のための取組  |
|----|---|---|
| 1年 | 調べ学習をする方法が一律的である。発表に慣れていない生徒が多い。  | テーマに沿って調べ学習をし、調べ方や発表方法を身に付けさせながら、まとめたものを発表させる。  |
| 2年 | 与えられた課題をこなし、積極的に取り組むことができる。周りとは協力して行うことに意欲的である。今後は自ら課題を設定し、問題を解決するまで粘り強く取り組む姿勢を身につけさせる。 | 校外学習を通して学習の課題を事前に設定し、見通しをもって行っていく。当日の取組を通して、事後の学習につなげ、今後の進路学習に活かしていく。個人で行った内容をプレゼンテーション形式で発表し、相互評価を行うことで、より自分の成果や課題をはっきりとさせ今後につなげていく。 |
| 3年 | 与えられた課題に対しては、しっかりと取り組むことができる。また、お互いに協力して発表活動をすることができる。                                  | 修学旅行の事前学習や行動計画を作成する中で、事後学習の班新聞を作成し発表するなどを行う。自らの課題を意識させ、発表を通して新たな気づきを生み出し、一人一人の探究につなげる。  |

## 12 特別活動

### 目指す生徒像を基にした特別活動で育成したい資質・能力

- (1年生) 集団や社会の一員であることを自覚し、様々な集団活動に自主的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮し、集団や自己の課題を解決する能力。
- (2年生) 自己の立場と責任を自覚し、与えられた役割を他者と協働しながら実践する。よりよい環境を構築するために、多角的な問題解決能力を養う。
- (3年生) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図る能力。

| 学年 | 現在の状況  | 改善のための取組   |
|----|--|--|
| 1年 | 集団で生活するのに規範意識が弱い。話し合い活動で合意形成を図り実践することが課題である。                                       | 認め合い活動を多く取り入れながら、集団の中でリーダーとフォロアーの大切さを実感させる。その上で自治的な活動を増やしていく。  |
| 2年 | 集団の帰属意識のある生徒が多く、集団行動を円滑に行うことができる。自主的、自治的な活動の取り組みに対して、方向性を同じくし、より積極性を高めていくことが課題である。 | 行事を通して明確な目標を設定し、方向性を示して指導を行っていく。自主的・自治的な活動を行う場面設定を行い、リーダーの育成や集団意識の向上を目指す。行事ごとに反省点や改善点を生徒自らが言い、次に生かせるような指導の徹底を行う。 |
| 3年 | 自分の与えられた仕事に責任をもって取り組むことができる生徒が多い。リーダーシップを発揮する生徒が少なく、生徒たち自身で問題解決を図っていくことが課題である。     | 行事や学級活動において、リーダーがリーダーシップを発揮しやすいように、周りの生徒がフォロアーシップを発揮できるような環境を作る。また、面接指導を通して、今までの自己の活動を振り返らせ、進路選択や自己実現につなげていく。    |

### 13 交流及び共同学習の進捗状況

| 学年 | 現在の状況   | 改善のための取組  |
|----|---|---|
| 1年 | <p>名刺交換会や運動会、校外学習を通してお互いを認め合うことができている。学年集会を合同で行い、同じ学年の仲間という意識を高める機会を設けることができた。お互いの良さの共有をすすめ、教科授業内での交流に繋げていく。</p>  | <p>事前事後学習の一部を一緒に行う。良い作品や発表を交流する。教科授業内での交流を充実させるために、交流を行う授業について、生徒情報の共有・授業内容・形態・時間など具体的に検討していく。</p>  |
| 2年 | <p>同じ階に教室が配置されていることにより、同じ空間でお互いを意識しながら過ごすことができた。学年集会の前で代表が1学期の反省を述べるなど、これまでの取り組みを生徒の口から述べることでお互いに頑張ってきたことを認め合う機会を設けることができた。共同の意識をどのように発展させていくかが課題である。</p> | <p>共同の意識を定着させるために場面の設定を行う内容の充実を伴う取り組みにするためアイデアを出し合う機会が少ないことがある。変更点や改善点のリスクマネジメントを踏まえ、事前の話し合いや相談を行う時間の設定をし、学校全体で行っていく。教科授業内での交流を充実させるために、交流を行う授業について生徒情報の共有・授業内容・参加形態・時間など具体的に検討していく。</p>              |
| 3年 | <p>学校行事を中心に互いを尊重し合うことの大切さを学ぶ機会を設けることができた。相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の更なる推進と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の場を設定することが課題である。</p>                                   | <p>取組の意義やねらいを教職員全体で共有するだけでなく、生徒・保護者も共通理解をもって進めていく。教職員が活動のねらい等を十分な事前学習を通じて、明確に示すことで、生徒の主体的な活動を促していく。保護者へ、学年だよりや保護者会等を活用して情報を公開していく。教科授業内での交流を充実させるために、交流を行う授業について生徒情報の共有・授業内容・参加形態・時間など具体的に検討していく。</p> |